

① 稲荷神社（作田）



- 国道115号線 八巻醤油店脇の柿の木畑奥の山
- 正一位作田稲荷神（蚕）
- 大橋作太郎氏（金沢屋）の神社
- 伏見稲荷大社より明治20年 分祀
- 金沢屋大橋伊三郎氏は「青熟」で明治から大正に掛けて栄えた。
- 蚕の種赤熟系の中の青引種から織度適度の繭から選出されたのが起原で色沢佳良、織度細目絹の原料として青熟が好適とされた。
- 稲荷神社を建立してお祀りしている。

②

薬師堂不動明王 陣場



不動明王



本尊 不動明王

鎮座地 伊達市霊山町掛田字東陣場2丁目1番地

部落を救った和尚さんの話

陣場部落には千海和尚さんの言い伝えが残っています。

昔の陣場部落には行輪寺というお寺がありました。

この和尚さんは千海という偉い和尚さんで、部落の人たちを集めては、仏様のこと、先祖を大切にする事と、部落の人が助け合うこと、また、丁寧に読み書き、人の生き方など広く学問を教えており、親しまれ、尊敬されていました。

和尚さんには困った事がありました。

それは、跡継ぎ(息子)が居ないことでした。

高齢となり、和尚は部落の人を集め遺言のお願いをしました。

私が死んだら陣場の一番川上に葬ってお盆には火の気が入らない生物をお供えしてください。

墓参りは1番先にしてください、そうしてくれるなら死んでも陣場を守ります。悪病、厄病は陣場に入れないといい亡くなりました。

その後、周囲の部落で大変悪い病気がはやり多くの人が死んで行きましたが陣場は災いから逃れているといい伝えられています。

②

薬師堂薬師如来 陣場



薬師如来

本尊 薬師如来

鎮座地 伊達市霊山町掛田字東陣場2丁目1番地

明正寺と並びにあったが、洪水や火災により東陣場に行輪寺として祀られたがまた、幾多の災害で荒れ果て三乗院として明正寺などと祀られ、この地は墓地のみが残った。

明治20年代地域の皆さんにより薬師堂とした薬師如来を祀り、陣場の薬師様として信仰を集め現在に至っております。

現在も近くに流れる小国川に架かる橋は「行輪寺橋」の愛称銘版が取り付けられています。

③

竹生嶋流棒術記念碑



所在地 掛田字館178番地

引地松男様宅 裏山の中腹に、数多くの石碑が立ち並ぶ5坪程の広場がある。

上の段に 天保十四年癸卯年 竹生嶋流 先師近江國 榊原左京大夫 藤原保房の碑があります。

大石広畑地内にも存在しますが、大石の記念碑は明治になって建てられたものと思われます。

引地松男様 宅裏山

竹生嶋流棒術記念碑、辨財天神の碑、

(ちくぶじま流棒術)

(旅の武芸者 藤原森光により伝授)

碑建立一員に八島鎌中良の銘が刻印

山戸田村八島家祖先八島成正の父 成美幼名鎌次郎

家系図に免許皆伝者「郎」は「良」と記名

文政9年～明治5年=西暦1825～1872年

④

茶臼館神社



- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字古城山1番地
- 御祭神 懸田定隆命
懸田俊宗命
懸用御前姫命
- 茶臼館神社(山頂に建立)(懸田定隆、懸田俊宗、懸田御前姫の三君を祀る)
- 建武2年4月15日高松城より移り茶臼山城主懸田近江守定隆、定兼、定勝三代の居城(応永20年まで)
- 天文9年6月19日 父懸田播磨守定勝の後を次ぎ俊宗懸田城主となる。
- 天文12年3月15日伊達晴宗が弟亙理綱宗を殺す。
- 父植宗との戦い・俊宗父方につき戦い・晴宗・政宗軍の危機をよく守ったが同22年滅亡、助三郎懸田城を以て政宗に降りる。
- 掛田御前晴宗妹、中島伊勢宗忠に寄る(保原城主・後の伊具郡金山城主)天正14年3月15日(1586)宗忠金山城にて御前を斬殺す

頂上に記念碑在り。菅野陣平の歌に
幾千代も をこのえ久しき 君の夜
に

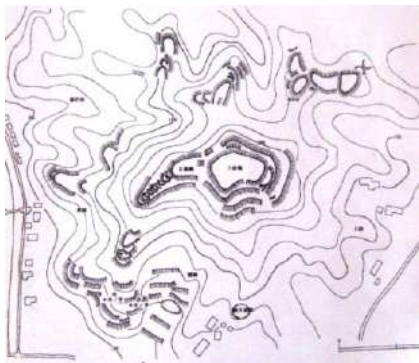
④

茶臼山



- 掛田市街地の東側を流れる小国川の対岸、茶臼山（古城山）にあり、城館としてその形態をよくとどめ、史跡としてもその存在価値については内外に評価の高いものがある。
- 標高255.2m比高差125m、土塁、空堀、帯郭から成る山城である。城自体独立丘陵に位置する。茶臼山山頂部の主郭を中心として西から南へ湾曲する急斜面の稜線上に、小郭が階段上に張り出す梯郭式の綱張りである。本郭直下約20mの帯郭より登る通路は、全体的に螺旋状を呈しており主郭部付近に至り渦郭式の形状を呈している。懸田城の築城時期は明確ではないが、南北朝時代の南朝方の武将懸田定隆の居城であり、靈山城の出城でもあった。
- 信夫郡岡本村高松城主陸奥六郎義隆の子、高森近江守定隆（懸田定隆）が南北朝時代の南朝方北畠顕家に仕え、建武2年(1335年)信夫郡高松城より靈山城の出城である懸田城に移り、懸田氏を称したとされている。現在は桜の名所としても親しまれている。
- 南北朝の動乱期に、南朝方の伊達行朝（7代）が懸田氏をおいて守りを固めたといわれます。辺りを一望できる高台は桜の名所として知られ、4月中旬～下旬には、掛田市街地からピンク色に染まった山斜面を眺めることができます。

④ 懸田城跡



北畠顕家の像(荻生天泉筆)
(霊山町掛田 佐藤健一氏蔵)

掛田市街地の東側を流れる小国川の対岸、茶臼山（古城山）にあり、城館としてその形態をよくとどめ、史跡としてもその存在価値については内外に評価が高い。

標高255.2m 比高差125m、土塁、空堀、帯郭から成る山城である。

城自体独立丘陵に位置、茶臼山山頂部の主郭を中心として西から南へ湾曲する急斜面の稜線上に、小郭が階段上に張り出す梯郭式の綱張りである。

本郭直下約20mの帯郭より登る通路は、全体的に螺旋状を呈しており主郭部付近に至り渦郭式の形状を呈している。

懸田城の築城時期は明確ではないが、南北朝時代の南朝方の武将懸田定隆の居城であり、霊山城の出城でもあった。

信夫郡岡本村高松城主陸奥六郎義隆の子、高森近江守定隆（懸田定隆）が南北朝時代の南朝方北畠顕家に仕え、建武2年（1335年）信夫郡高松城より霊山城の出城である懸田城に移り、懸田氏を称したとされている。現在は桜の名所としても親しまれている。

南北朝の動乱期に、南朝方の伊達行朝(7代)が懸田氏をおいて守りを固めたといわれている。辺りを一望できる高台は桜の名所として知られ、4月中旬～下旬には、掛田市街地からピンク色に染まった山斜面を眺めることができる。

山頂には公園記念碑、山腹には郷土の歌人佐藤嘲花の歌碑と同詩人高橋新二の詩碑がある。

⑤ 懸田御前観音堂



懸田御前観音像



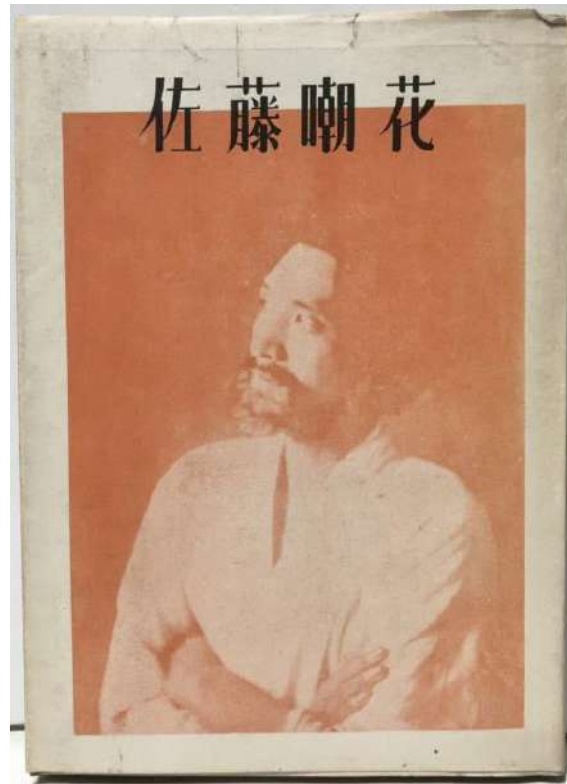
建立記念碑

懸田御前観音堂、その昔春の頃には紅白幕を掛け、お祀りした。
平成に入り大雪で甚大な被害となっていました。
2019年有志の寄付で再建されました。
再建の碑も建立されています。
本尊は三乗院にお祀りしております。

⑥ 歌碑 佐藤 嘲花



1887 - 1922 明治から大正時代の歌人、明治44年前田夕暮の「詩歌」の発刊に加わる。大正4年福島民友新聞の記者となる。」



白石の医者佐藤一家は養蚕で栄えた掛田の金沢屋大橋佐太郎の招きで掛田に開業した。医者の息子として多幸に育ち文学・詩歌を愛し明治39年早稲田大学へ。郷里の思いを沢山詩歌に福島民友新聞に入社し、選者を務めた。若くして胸を病み短い人生でしたが、多くの作品があり死後、著者宮本織絵によって「佐藤嘲花」遺歌集が残されております。茶臼山中腹に文学愛好家により歌碑建立されました。

碑文には

**「遠山は雪もはだらに春日さす
この街道はゆけど飽かず
も」**

と刻まれている。

⑥ 歌碑 高橋 新二



自由詩の黎明期を切り拓き、生涯詩作に生きた詩人

高橋新二は明治39年掛田に生まれ育ち、若くして文学を好み、多くの詩歌を残し、福島県いや日本文化・文壇の発展に寄与された歌人で、ここ掛田に文学の泉を盛んに発掘し故郷の山を愛し多くの歌を残している。また、多くの(180余り)校歌を作詞し、歌われている。地域の旧友など、多くの方の歌碑建立の輪が広がり茶臼山中腹に建立された。

碑文 山の山
山のかなた
山こえて
山の果てに
海ありと



碑文は高橋新二さん直筆の文字で、5行刻まれています。

⑦ 黄金山 (こがねやま) 神社



- 御祭神 富主姫
- 鎮座地 伊達市霊山町掛田字古城山2番地
- 金華山より分霊文久2年富主姫を祀る
明治4年10月建立

⑧

若松屋蔵 (元陣場屋の蔵)



元陣場屋 菅野平右衛門さんの蔵
(蚕の種などを保管)

現在はクリエート若松屋さん所有。

昔は、養蚕で栄えた掛田の町を忍ぶ
事の出来る土蔵の一つです。

⑨ 元 鈴木歯科医院



縦書きの電話番号が門柱に、国旗掲揚器具が備えてあり、時代を感じさせる。

- 昭和初期に建てられた洋風建築

⑩ 掛田蚕業伝習所跡 (館山家住宅)



明治時代伝習所の写真 (提供：館山家)

館山家は明治14年に我が国最初の民間「蚕業伝習所」を創設し、明治28年に閉所するまで全国養蚕農家の子弟の技術習得に務めました。

また、「機業伝習所」も併設し、広巾輸出軽目羽二重機の開発に務め、今日の川俣軽目羽衣の隆盛につながっています。

(伝習所の建物は現存していません)

出典：掛田地区健幸都市協議会

①①

金刀比羅神社 (三浦家守り神)



御祭神 天照大神

大物主命

天御中主命

鎮座地 伊達市霊山町掛田字西館5番地

航海の安全や豊漁・五穀豊穰・商売繁盛などご利役として篤い信仰を集めており、四国の本山より分神
こんぴら様の祭りは「おふかし」が貰える。
この社前の山桜の大木はなぜか横上に伸びているので、
子供達のかっこうな遊ぶ場となっていた。
5月頃には小さいサクランボが成るので、子供達が群がっていました。



⑫

明正寺 石塔



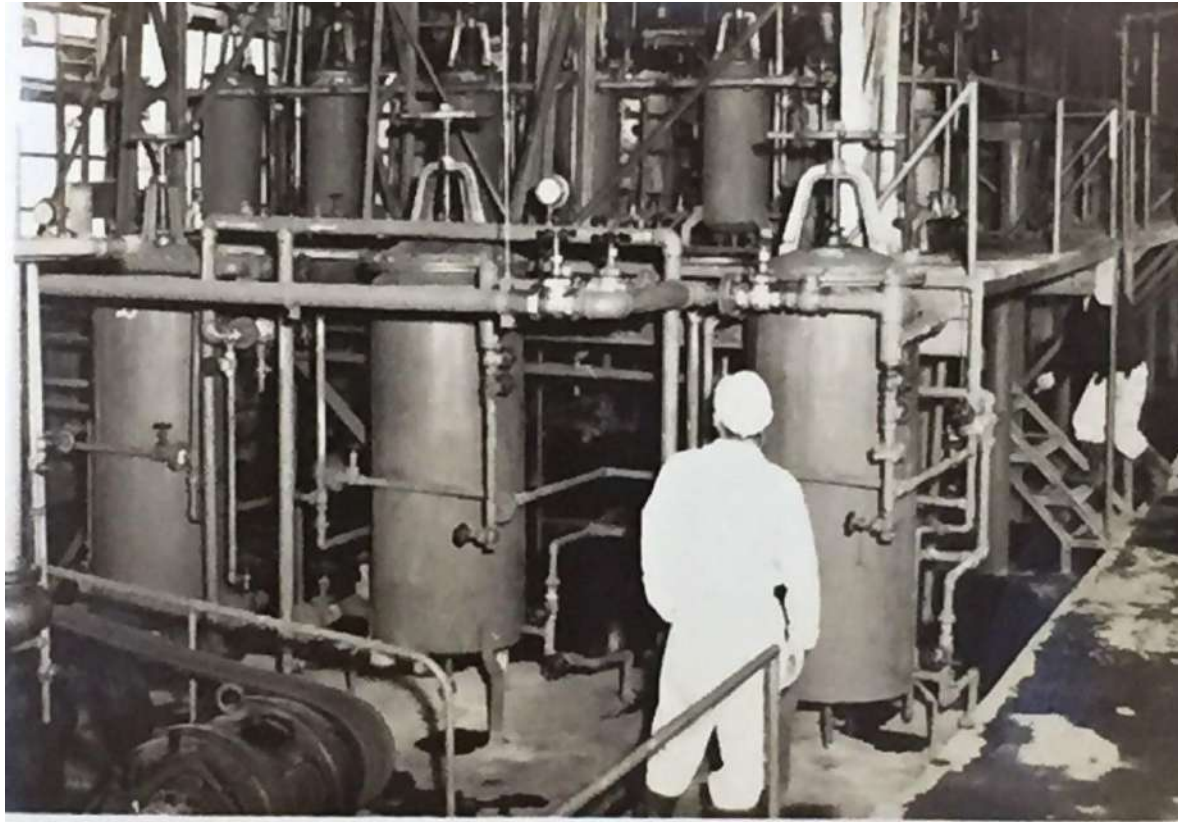
応永8年（1401年）釈迦三尊の梵字が刻印 懸
田氏は天正16年攻め滅ぼされ（1588年）
懸田助三郎は仙台に逃れた。
碑建立は滅亡より180年も古い。

懸田近江守定隆が茶臼山築城と共に旦那寺造建
故に懸田氏滅亡後、子孫か家臣達が石碑を建立
したものと思われる。

虫供養塔の伝えは宇治御前が養蚕振興に努め
たとの故事によるものと言われている。

懸田氏は1325年～1588年。
約260年続いた。

⑬ ライオン菌薬工業KK内部 (段居)



昔ライオン製薬の子会社で新薬研究所（ペニシリンを研究製造所していた）が火災により焼失した。現在の伊達市霊山総合支所所在地

ペニシリン委員会の設立

1944年2月1日に稲垣克彦を中心に4名を幹事としてたペニシリン委員会が組織化され、第一回委員会が開催された。委員長は陸軍軍医学校長三木良英中将

日本ペニシリン協会設立時の会員会社

万有製薬(株)	ライオン製薬(株)
第一製薬(株)	理研栄養薬品(株)
大日本製薬(株)	三共(株)
郡是製糸(株)	三洋油脂(株)
星製薬(株)	匂坂酵素産業(株)
(株)北海道興農公社	新日本興業(株)
藤沢薬品工業(株)	塩野義製薬(株)
協和産業(株)	昭和製薬(株)
森永薬品(株)	品川電機(株)
三井化学工業(株)	東洋酵母工業(株)
明治産業(株)	多摩川化学(株)
明治乳業(株)	武田薬品工業(株)
中島化学工業(株)	玉屋産業(株)
日新化学工業(株)	鳥居製薬(株)
日本新薬(株)	帝国社農芸化学(株)
大沢乳工業(株)	(合計31社)

①4

防空監視哨 (段居)



当時の任務した関係者

太平洋戦争前に（1941年）防空監視哨が出来た。

現在の霊山総合支所裏、段居山の松林を切って平らにして建設されました。

丸い屋根を葺くのに苦労したと言う。

掛田の町が丸見えの山の上、直径2m深さ2mの桶を埋けた様な大きな穴、戦時中敵機を探ったと言う。

「飛行機の方角・機種・機数・高度約2000」と言った具合に、電話で県庁に連絡、県庁から仙台の第二師団を通じ各地に警報が発せられました。

写真は当時その任務について関係者で7人一組で編成、5組あり更に予備として10程度いたと言われていました。

戦争に勝つため唯一の施設でもありました。

⑮ 堀井戸 (段居)



段居の井戸

地域の人々の飲み水、生活用水として利用されていた。
2011年東日本大震災時にも地域の人々はもらい水で大いに助けられた。



水神様、水の神様として水の守り神といってお祀り

①⑥ 記念碑 (霊山町閉町記念の碑)



平成17年12月31日 閉町